

# サイバー大学研究紀要

Research Bulletin of Cyber University

第1号  
(2023年度)





# 巻頭言

すべての授業をオンライン・オンデマンドで授業を行う日本初の大学として2007年4月に開学したサイバー大学ではありますが、17年間余の沿革の中でも大小様々な変化と進化を遂げてきました。この10年を振り返ってみても、スマートフォンの一般市民への浸透や5Gに代表される通信帯域の桁違いの向上など、デジタル技術の汎用化は目を見張るいとまもないほど、急速に進みました。本学もこれらの技術革新に連動するように、教育技術（EdTech）を自ら開発・運用し、学内外の学校や企業においてデジタル技術を基盤とする教育の促進に少なからず貢献してきました。

しかし、この2、3年の間に、世界は生成AIという新たなテクノロジーと余儀なく出会うことになりました。瞬く間にコモディティ化する生成AIは、様々な課題を教育界にもたらし、従って大きな混乱を招いています。他の大学と同様、本学でも教育現場において、多くの議論が起きています。従来大学で行っていた知識やスキルの指導と評価を、これからは学生によるAIの活用力との混在を認めながらも、今後はどのように進めていくべきなのか考えなくてはなりません。しかし、テクノロジーそのものがどんどん進化しているために、まだ大学教育のなかでの取扱いについて、明確な未来を見通せていないのが現状です。

残念ながら、いまの私たちには、目の前に急に出現したAIテクノロジーの海原に呆然と向き合っている暇はありません。いまのところ、このAIの大海原に漕ぎ出す準備をしているなか、従来の教育活動の成果報告や、学修成果を小刻みに認証するしくみの導入と期待される教育効果など、本号ではサイバー大学内の教育マネジメントに関するテーマのいくつかを取り上げて、ご報告に至りました。

なお、2010年以来、年に一度を目安に「eラーニング研究」というタイトルで紀要の発刊を続けてきましたが、この度より「サイバー大学研究紀要」へと改めることにいたしました。私たちの教育研究上の取組みは、常に新しく生じる課題への挑戦と探究の連続です。急速に進む技術革新と社会の変化を追いかけて、これからも多様な価値を教育研究の成果として創出していくことを本学の教職員に期待しています。

サイバー大学 学長 川原 洋

# 目 次

## 巻頭言

## 研究報告

- マイクロクレデンシャルによる継続的学修モデルの提唱……………川原 洋 …… 1
- e-learning による英文ライティング指導のための結果フィードバックシステム導入  
……………藤澤弘美子・白須 洋子・佐藤 佳織・河内 一了・井上 麻里 …… 9
- オンライン大学における学生間・教職員とのつながり感の形成  
……………米山あかね …… 17

## 解 説

- 福岡市とサイバー大学……………遠藤 孝治 …… 27